

## 事業者向け

## 放課後等デイサービス自己評価表

		チェック項目	はい	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	8		利用者の安全面を最優先として、部屋のスペースや職員の配置をしています。
	2	職員の配置数は適切であるか	8		
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	8		
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	8		業務改善の話し合いはできていなく、個々人で整理しながらしている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	8		アンケートを実施し、それをもとに改善の取り組みをしている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	8		ホームページに公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	7	1	第三者による外部評価は十分にはできていないが、不定期に地域の方に参加して頂き意見をもらっている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	6	2	外部の研修会等に参加し、フィードバックを行っている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	8		保護者のニーズをしっかりと聞いて、それを踏まえて計画を立てている。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	8		幼児期から利用している子供が多いので、引継ぎで使っている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	8		活動プログラムはスタッフで一緒に考えている
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	8		イベントで新しい企画を取り入れよう心がけている。 創作、運動、ゲームでのルール理解学習(実践)、屋外での運動活動など多様な活動を行っている。 より多彩なサービス内容を考えていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	8		学校終わってからの過ごし方や給仕tの時間の使い方なども教えていながら、支援している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	8		個々の興味、得意なことに注目し、それぞれの状況に応じて計画を策定している。 お子様の得意なところを伸ばしていくように個別支援を行うと共に、社会性を育てるために集団活動を実践していく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	8		全員での打ち合わせについては出来ていない部分があるけど、主となる職員を中心に打ち合わせをそている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	7	1	スタッフ間は振り返りをしている。 職員間で情報共有しやすいシステムで取り組んでいます。

	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	8		写真を添えながら記録を取るなどしている。お子様の行動を客観的に評価できるように記録を工夫し、毎日個別支援計画に沿ったことが提供できているかチェックをしている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	8		最低でも半年に1回モニタリングを行っている。モニタリングの前には、スタッフ間で調整会議をして、療育の振り返りと今後の課題について協議をしている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	8		基本的日常生活動作や自立生活を支援するための活動を行っている。また、創作活動、地域交流の機会の提供、余暇の活動を行っている。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	6	2	児童発達管理責任者、担当指導者が参加している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	7	1	保護者から相談を受けた場合に、様子の確認に担任の先生と連絡を取るようになっている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	8		主治医の診断を主に療育をしている。診断を受けたらその都度情報を共有している。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	8		児童発達支援を利用していた児童について、幼児期から保育園などと情報共有をしていき、放課後等デイサービスでも、その情報を生かしながら支援している。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	8		児童福祉サービスに移行する事例は、これまで締結していない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	8		研修には参加できていないことも多いので、様子を見て研修も受けるようにしていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	8		放課後児童クラブや児童館との交流は実施する予定はない。障害のない子どもと活動する機会には地域活動に積極的に参加し、利用児に経験できるようにしている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	8		定期的に地域自立支援協議会のこども部会に参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	8		直接お話しする際に詳しく情報共有をしている。他のツールを使って、保護者の負担がない形で情報共有できるように努めていく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	8		感染対策もあって、複数でのトレーニングはできていないが、個別で支援をしている。
保護者への説明	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	8		重要事項説明書、契約書等に記載し、サービス利用契約の際に確実にしている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	8		日頃から家族の様子を保護者様から伺うように務めている。また、こちらの様子をお伝えするようになっている。

責任等	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	8		定期的に保護者会をしているが、認知している方が少ないので、もっと広めていくように掲示の工夫をしていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	8		これまでに苦情をお受けすることはなかった。今後も苦情受け付けの体制をつくり、迅速な対応ができるように務める。
非常時等の対応	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	7	1	インターネット、SNSなどを利用して、保護者、地域の方などが気軽に情報を共有できるようにしていく。
	35	個人情報に十分注意しているか	8		個人情報の取り扱いについては、職員で十分注意して扱うよう、今後も徹底していく。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	8		視覚支援でわかりやすくお伝えするように努力している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	6	2	保護者の意向を確認しながら考えていきたい。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	8		マニュアルの掲示なども行っている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	8		定期的に避難訓練を行っている。
40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	8		研修にも積極的に参加していく。	
41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	8		事前に保護者に了解を得た上で行っている。身体拘束を行った際には、保護者に対して説明を行うと共に記録に残すようにしている。	
42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	8		保護者からの情報で個人に合わせて対応している。	
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	8		ヒヤリハットが起こった際には、報告書を作成し、改善策を検討し、職員に回覧し保管している。	